

# 会議録

## 1 会議名

令和6年度 上越市学校給食運営委員会

## 2 議題（公開非公開の別）

- (1) 委員の委嘱（公開）
- (2) 正副会長の選出（公開）
- (3) 状況報告（公開）
  - ① 学校給食の運営
  - ② 食物アレルギー対応の状況
  - ③ 異物混入の状況及び対策
  - ④ 地場産野菜の使用拡大
  - ⑤ 学校給食調理業務の民間委託

## 3 開催日時

令和7年2月18日（火）午後2時30分から

## 4 開催場所

教育プラザ 大会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）

委員：竹内委員、堀川委員、大塚委員、加藤委員、藤澤委員、佐藤委員、  
樋口委員、山崎委員、大山委員、米山委員、池田委員、西山委員、  
大道委員、伊藤委員

事務局：教育総務課 瀧本課長、植木栄養士長、大石栄養士長、山田係長、横木主事

オブザーバー：学校教育課 板垣指導主事

## 8 発言の内容

### (1) 開会

（山田係長）

- ・（参集に対するお礼）
- ・（資料の確認）

### (2) 挨拶

（瀧本課長）

- ・（参集に対するお礼）
- ・ 本委員会は、学校給食の充実と適正な運営を図るため、設置している。学校給食の実施計画や学校給食費、学校給食用物資購入、その他学校給食に関する事項につ

いて、ご審議いただいているところである。

- ・ 学校給食において、食中毒予防、食物アレルギー事故防止、異物混入事故防止等の対策が重要である。給食を楽しみにしている子どもたちに安心して食べてもらうためには、安全が大前提となる。令和5年度に発生した食物アレルギー誤食事故等を踏まえ、アレルギー専門医や学校長、養護教諭、栄養教諭、上越保健所職員等の有識者で構成する「上越市立幼稚園・学校食物アレルギー対応委員会」において、意見交換・検討を重ね、「上越市立学校における食物アレルギー対応の手引き」を改訂したところである。

今後、学校及び調理員に向けて改訂内容の周知・説明を行い、食物アレルギー事故防止対策の徹底を図っていく。

- ・ このほか、教育委員会では地場産野菜の使用拡大に向けた取組や、ここ数年続いている物価高騰による食材料費の値上げに対して、学校栄養教職員からは献立や調理方法の工夫をしていただくとともに、市では必要な予算を確保し、給食費を値上げせず、保護者の負担軽減を図るための対応に取り組んでいるところである。
- ・ 委員の皆様からは、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき、今後も引き続き、子どもたちにとって安全安心でおいしい給食が提供できるよう、取り組んでまいりたい。

### (3) 委員の委嘱

(山田係長)

- ・ この会は、上越市学校給食運営委員会設置条例に基づき設置され、任期は2年と定められている。任期中に委員の交代があった場合は、前任者の残任期間が任期となる。

### (4) 委員の紹介

(山田係長)

- ・ 本来であれば、皆様から一言ずつご挨拶いただくところだが、今回は資料2ページの名簿により、事務局からの紹介に代えさせていただく。

(事務局、各委員の紹介)

- ・ 委員の出欠状況についてご報告をさせていただく。委員総数15名のうち、出席が14名、欠席が1名となっており、出席が過半数に達しているため、上越市学校給食運営委員会設置条例第6条第2項により、この委員会が成立していることをご報告させていただく。

### (5) 会長副会長の選任

(山田係長)

- ・ 上越市学校給食運営委員会設置条例第5条の規定により、会長及び副会長は委員の互選によって定めることとなっている。選出について伺いたい。

〔意見なし〕

- ・ 選出の意見がなければ、事務局の案をお示ししてよいか。

〔一同了承〕

- ・ では、会長を里公小学校長の堀川委員、副会長は上越市小中学校 PTA 連絡協議会副会長の加藤委員にお願いしたいが、いかがか。

〔一同了承〕

(堀川会長)

- ・ (会長就任の挨拶)

(加藤副会長)

- ・ (副会長就任の挨拶)

(山田係長)

- ・ 設置条例第 6 条の規定に基づき、ここからは会長に議長として議事進行をお願いする。

## (6) 状況報告

(堀川会長)

- ・ 「1 学校給食の運営」から「5 学校給食調理業務の民間委託」までについて、あらかじめ事務局から資料の配布があり、確認いただいていると思うが、それぞれの項目について事務局から補足説明をお願いします。

(山田係長)

- ・ まず、「1 学校給食の運営」について。資料は 4 ページとなる。(4)給食費についてだが、給食費の一食単価は、平成 26 年度に改定を行ったのを最後に、小学校 280 円、中学校 325 円となっている。実際のところ、学校給食で使用するあらゆる食材が値上がりしている状況で、令和 6 年度 4 月から 12 月までの平均単価は、小学校が 321 円 (+41 円)、中学校が 379 円 (+54 円) となっている。また、この平均には含まれていないが、先月 1 月からは学校給食で使用しているお米（上越市産つきあかり）も大きく値上がりしたため、実際の単価は今後もさらに上がっていく見込みである。

このような状況ではあるが、近年の物価高騰・エネルギー価格の高騰が家計を圧迫する中で、保護者の経済的負担を増やすことはできないと考えており、令和 7 年度も単価の改定は行わず、物価高騰相当額（学校給食費との差額）を市が負担することとしている。

また、学校給食費については現在、国が主体となって無償化に向けた動きもある。昨日の国会でも、石破首相が「まずは小学校を念頭に再来年度（令和 8 年度）以降、制度化を目指したい」と発言された。全国で無償化するとなると、給食を実施していない学校の児童生徒はどうなるのか、年間約 4,900 億円かかるといわれている財源の確保はどのようにするのか等、様々な課題があるが、市としては今後も国の動向を注視していきたい。

- ・ 次に、資料の 5 ページ(4)炊飯方式についてだが、合併前上越市においては、一部の学校を除き、学校の給食室の中でご飯を炊く「自校炊飯方式」ではなく、ご飯の炊飯から各学校への配送、空き容器を回収して洗浄・消毒・保管をする業務について、民間業者に委託する「委託炊飯方式」をとっている。

委託業者 3 者のうち、1 者が昨年 10 月に高田地区で発生した火災により被災し、業務継続が困難となったため、担当校の小中あわせて 14 校でご飯の提供ができなく

なった。14校のうち1校については、自校炊飯方式に切り替えることで11月8日からご飯の提供を再開し、残りの13校については、当初からの委託業者と、そして新たに引き受けてくださった業者2者とで分担し、12月2日からご飯の提供を再開した。再開するまでの約1か月半もの間、ご飯の献立の日は各ご家庭から主食を持参していただき、給食費についても持参いただいた回数分の主食相当額を返金させていただいた。

今回の件を受け、改めて保護者の皆様、学校教職員、そして業者の皆様のご協力のもと、学校給食が成り立っていることを実感した。

- ・ 次に、「2 食物アレルギー対応の状況」について。資料は7ページとなる。資料にも記載したとおり、今年度、「上越市立幼稚園・学校食物アレルギー対応委員会」において意見交換・検討を重ね、手引きの改訂を行った。前回改訂した令和2年1月以来の改訂となる。主な改訂ポイントとしては、まず、制度改定等に伴うものとして、令和4年度の診療報酬改定により、主治医の先生から記入いただき、保護者から学校へ提出する学校生活管理指導表が保険適用となったことを書き加えたほか、教育委員会事務局の役割として、先ほど申し上げた「上越市立幼稚園・学校食物アレルギー対応委員会」を開催することを明記した。

そして、これまでに発生した誤食事故やヒヤリハット事案等を踏まえ、手引き全体をとおして見直し、読む人によって解釈が異なる可能性のある表現の解消、「誰が・何を」をより具体的かつ明確になるよう修正した。

改訂後の手引きについての周知・説明は、まず、学校管理職・養護教諭・栄養教職員向けに先週2/12にZoom形式にて実施した。調理員向けには、3/25に対面形式にて実施予定である。手引き自体は、関係者への周知・説明終了後に、市のホームページに掲載する予定である。

- ・ 次に、「3 異物混入の状況及び対策」について。資料は8ページとなる。異物混入発生状況の表について補足する。令和6年度の件数について、資料では12月末時点としているが、改めて1月末時点の件数を口頭でご報告させていただく。令和6年度、「毛、虫、糸等」の件数が86件から92件に、「うち経口事案」が2件から3件に変更となる。括弧内はいずれも0件のまま変更はない。合計件数は98件、うち経口事案は3件となる。今後も引き続き、異物混入対応マニュアルに基づき、防止対策を徹底していく。
- ・ 次に、「4 地場産野菜の使用拡大」について。資料は9ページとなる。特段、補足はないが、引き続き、市の農政部門を始め関係者の皆様と連携を図りながら、学校給食における地産地消の取組を推進してまいりたい。
- ・ 次に、「5 学校給食調理業務の民間委託」について。資料は10ページからとなるが、こちらも特段補足はない。資料のとおりとなる。

各報告事項についての補足説明は以上である。

(堀川会長)

- ・ 今の補足説明を含め、事前に内容をご確認いただいた中で、ご意見やご質問があれば受け付けるが、いかがか。

(加藤副会長)

- ・ 給食費については保護者から色々な意見があがっている。食材の価格が上がっているが、給食では野菜が多いメニューで保護者として嬉しく感じている。先ほど、市が補助をしているとの話があったが、保護者の中でも、給食費を値上げしないためにどのような工夫をしているのか、疑問に思っている人が多い。市の取り組みや頑張りを保護者に伝えていただければ、さらに学校給食に関心が持てるのではという要望があった。
- ・ また、昨今の物価高騰に対して給食費は上がっておらず、無償化という話も出ている中で、上越市の給食の質が低下するのではないかと懸念を示している保護者もいる。地場産野菜を使用する取り組みなどを継続しながら、給食費を上げなければならない時期が来るかもしれないが、質は保ってほしいという声があった。
- ・ アレルギーについては保護者もかなり関心が高く、子どもたちもアレルギーについてもっと知った方がいいのではないかと、という意見があった。そうすることで、周囲の子どもたちが症状にいち早く気付けることもある。先生方も大変な中ではあるが、食物アレルギーの怖さや、事故を防ぐためにはどうすればよいのかをテーマにした講話や、子どもたちを対象とした訓練などを実施したらどうかとの意見があった。

(山田係長)

- ・ 給食費に関連する部分についてお答えする。先ほど補足説明させていただいたとおり、実際、保護者の皆様からお預かりしている給食費では賄いきれておらず、物価高騰相当分を市が負担している状況であるが、だからといって、給食の質・食材の質を下げるようなことは全く考えていない。食材を選定する際の優先順位として、まずは上越産（地場産）のもの、次に県内産、県内産が無ければ国内産を使用することを原則として、食材を選定している。  
また、毎月の献立を考えてくださる栄養教職員の皆さんからも、可能な範囲でコストを抑えながら、かつ栄養バランスや量を保つように、様々な創意工夫をいただいている。物価高騰が続いているが、今後も栄養バランスや量・質の確保は最優先に考えていく。

(大石栄養士長)

- ・ 献立作成の工夫について補足する。合併前上越市や区のブロック単位で複数の栄養教職員が献立班に分かれ、物価を考慮しながら知恵を絞って献立を作成している。従来と比べると多少デザート回数が減っているかもしれないが、たとえばカルシウムなど、栄養素を多く含む食材は物価が高くても重点として使い、その分を他の食品で軽くするなど、野菜で言えば、もやしの使用割合が増えることもあるかもしれないが、様々な工夫をいただいている。その中で、単価を超えてしまう分については、市で補填をすることで質を下げないようにしている。
- ・ アレルギーに関する子どもたちへの教育については、現場で実際に行っている事例等があればご発言いただきたい。アレルギーの手引きにも、子ども自身も認識を持ち、自分の身を自分で守るという視点のほか、周りの子どもたちも、アレルギー

を有する子を支えるという視点が重要と位置付けている。怖いだけではなく、正しい知識を持ち、皆で給食の時間を安全安心で楽しく過ごせる。給食に限らず、食に関する学校活動の中で子どもたちが目配り・気配り・声掛けができるような教育をということで、改めて学校にも伝えていきたい。

(米山委員)

- ・ 今年度から、年度始めに行う給食に関する話の最後に、食物アレルギー対応が必要な生徒がいることや、安全のために配膳は一番先に行くことなどについて、個人が分からないようにしたうえで全校生徒に向けて話をさせていただいた。
- ・ また、様々なアレルギー疾患のひとつとして食物アレルギーがあり、食べたものが体に入ることによって反応が出るということも話をさせていただいた。もし体調が悪くなった時は、いち早く教職員など大人に知らせること、そして皆で助けてあげることについても指導を行った。

(池田委員)

- ・ 昨日、来年度に向けた校内のアレルギー対応委員会があり、個別指導計画について関係職員間で話し合いをした。その際、校長から、前任校ではアレルギーについて理解を深めるために、簡単な資料を使って全校向けに話をし、それがすごくよかったと聞いた。来年度、可能であればその学校から資料を提供してもらい、当校でも全校向けに話をしたいと考えているところである。
- ・ これまでは、各学年に任せている部分があった。担任からクラスの子どもたちに対して、アレルギー対応が必要な子についての話を具体的にしていた。
- ・ 過去にあったすばらしい事例として、クラスのお楽しみ会で調理実習をすることになったが、そのクラスには卵アレルギーの子がいた。子どもたちは本心を言えばホットケーキなどに果物を飾って食べたいところを、卵アレルギーの子に配慮して、最終的にご飯と味噌汁を作ることとなった。周りの子どもたちも、食物アレルギーに対する思いやりの心が芽生えて来ているなど感じているが、全校で統一して話をすることも重要と思うため、来年度実施したい。

(堀川会長)

- ・ 全校に対してのアレルギーの正しい理解を図るような取り組みが必要とのことであった。私自身も以前に家庭科の授業を持っていたが、理解を深めることで、給食だけではなく、家庭科等の授業の中でも周りの子が気付いてくれるようになる。たとえば、生卵を触ってはいけない子がいて、グループ内で話し合った結果、卵を使わないと決めた事例もあった。正しい理解をすることは、自分の身を守るだけではなく、周りを守ることにもつながるのではないかと思う。

(竹内委員)

- ・ 昨年度も同様の話をしたかと思うが、栄養教職員には本当に頭が下がる思いである。献立作成や、13区の方は発注事務もしなければならない。兼務している学校があれば、兼務校の子どもたちのことも考えなくてはならない。さらに、調味料など

を含めて余った食材があれば、無駄にしないように次の献立で使用方法を考えるなど、アレルギー対応も含めて様々な業務がある。現在、市の中で食育部を担当しているが、栄養教職員からは、本来もっと食育に力を入れていきたいが、そうではない部分に力を入れなければならないという声もあった。市の財政的な問題もあると思うが、何とか捻出して給食に関わる人の配置を1人でも多くしてもらえたら幸いである。

(堀川会長)

- ・ 栄養教職員の話が出た。せっかくの機会であるので、本日出席している委員の中から何かあればご発言いただきたい。

(西山委員)

- ・ アレルギー対応については他の委員からも話があったので、私からは献立作成についてお話す。献立は、食材業者から見積を取りながら作成しているが、肉や魚など、あらゆる食材の値段が上がっているため、一度献立を立ててみて、そこから修正を加えていくといった流れで行っている。

成長期の子どもたちに必要な栄養素をしっかりと取ってもらいたいため、色々と工夫をするが、たとえば、今までと同じサラダでも、さいの目状など切り方を変えてみるといつもと違った感じになったり、出来上がるものは同じだが、スープの名前をユニークな名前にしたりして、特別感を出すような工夫もしている。

- ・ 先ほど、もやしの回数について話題となったが、確かにもやしは安価な食材である。調理員さんも扱いがとても上手で、食べた時にしゃっきり感が残るように調理をしてくれている。今後もお互い協力し合いながら、おいしい給食となるよう努めていきたい。

(堀内会長)

- ・ 他にご意見やご質問はあるか。  
〔特になし〕
- ・ 事務局からは、他に何かあるか。  
〔特になし〕
- ・ ご意見がないようなので、次に移らせていただく。

(7) 閉会 (山田係長)

- ・ (閉会の挨拶)

9 問合せ先

教育委員会教育総務課学校給食係 TEL : 025-545-9266 (内線 2640)

E-mail : kyouikusoumu@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。

- ・ 令和6年度上越市学校給食運営委員会次第
- ・ 令和6年度上越市学校給食運営委員会資料